

危機から復興へ

アメリカ合衆国大統領 バラク・オバマ

To order a printed copy, please click [here](#).

To download a low-resolution pdf, click [here](#) or go to the [Newsdesk site](#).

二十一世紀の課題に取り組むには、協働対応と世界のあらゆる国が責任をもつことが必要です。

ピッツバーグでのG20サミットでは、危機から復興への重要な移行を記録に残しました。G20がその前にロンドンで会合したのは、世界各国が前代未聞の大きな試練に直面している時でした。G20はそれに対し、規模と成果の面で前例のない協働政策を約束することで力強く対応しました。このような対策により、世界経済は恐慌寸前の危機を脱出し、世界的な景気回復の兆しが見え始め、金融市場は活気を取り戻してきました。最近発表された国際労働機関の報告によると、G20のこの対応により、2009年から2010年の間におよそ2100万件の雇用が維持または創出されました。しかし、まだ多くの課題が残されており、G20は、景気回復が完全に安定するまで慎重さを失うことなく、経済成長を復活させ、雇用を創出するよう積極的政策の実施を計画しています。

ピッツバーグでは、景気回復と世界経済成長に力が戻ってきた時、現行の金融および経済制度に一連の改善策を実施し、世界経済を危機に至らしめた危険な実務への回帰を確実に回避することに同意しました。G20はさらに、強靱、持続可能で均衡の取れた経済成長に対する新たな枠組みを実践し、金融規制と監視制度を改善すること、すなわち再生された世界経済構造により支持および実施される制度に改善することに合意しました。G20首脳陣には主要エネルギー生産国や巨額の補助金保有国も含まれていますが、それらの国々が、化石燃料に対する補助金を徐々に廃止し、目標とするレベルの援助を最貧国に供給すると約束しました。このような画期的な努力は、エネルギーの節約を奨励し、エネルギー安全保障を向上させ、さらに温暖化ガス排出量の減少に対する従事の出発点となることでしょう。

ピッツバーグが重要な意義を持っている理由は、は世界中の生産高の85パーセントを占めるほど多数のG20参加国が初めて、各国の経済計画の意義と一貫性を評価し、必要とされる改革実行のための最善の実務について合意し、全ての国において経済成長を確実化するために必要な世界需要の再均衡化を支持する政策を導入したことです。

21世紀経済の課題は、20世紀で有効であった手段では取組み不可能であることは、我々も認識する事実です。21世紀の世界では、各国が相互利益を共有するというを過去にも繰り返し学んできました。これは私が国民に対して、真の成果をもたらす新たな責任従事の時代を要望している理由です。この新たな時代とは、国はその責任を果たし、かつ諸国間で共有される安全保障と繁栄の代役を務める時代なのです。ピッツバーグでG20が構築した強靱な協力関係というのは、まさにこのことなのです。

さらに、それを理由としてG20は新たな手段の構築に向かって主導権を握ってきたのです。各機関に現代の実情を反映させるため、国際通貨基金において新興経済国へ責任を移動し、これらの国にも今以上の発言力を与えるのです。新しい市場を築き上げ、世界の最も弱い立場にある市民が貧困から抜け出せるよう、食料の保障およびクリーンで安価なエネルギーに対する助成を目的とした新しい信託基金を、世界銀行に設立しました。さらに我々は、これらの約束を確実に守るため、努力を怠ることなく前進し続け、近くトロントで開催されるG20サミットの重要課題とします。

G20は国際経済構造の改革において歴史的な一歩を踏み出し、今や国際経済協力に関するフォーラムで最も重要なものとなりました。このG20の変化には、国際金融機関において開発途上国に今まで以上に与えられつつある発言権と共に、アメリカが21世紀に探求する広範囲で包括的な責任が顕著に表されています。

我々が、世界経済の救出から強靱で、持続可能な、均衡のとれた経済成長の促進へと移行する努力を継続する傍ら、カナダおよび韓国は今年G20の主催国として重要な役割を果たすことでしょう。ピッツバーグは橋の街として知られていますが、我々はそのピッツバーグの伝説に刺激を受け、真の21世紀経済へとページをめくると同時に、世界規模の復興という共通の利益を進展させるべく、再び協働の機会に恵まれているのです。